諏訪之瀬島の火山活動解説資料（令和８年 10 月）

福岡管区気象台
地域火山監視・警報センター
鹿児島地方気象台

御岳（おたけ）火口では、噴火が時々発生しました。
噴火に伴う噴煙は、最高で火口縁上 700ｍまで上がりました。弾道を描いて飛散する大きな噴石は、観測されませんでした。
GNSS 連続観測では、2024 年 10 月以降、島の西側におけるマグマの蓄積量の増加を示唆する変動が認められていましたが、2025 年 11 月頃から停滞しています。火山性地震は、少ない状態で経過しています。
諏訪之瀬島では長期にわたり噴火を繰り返しています。御岳火口では夜間に火映を観測し、火口内の熱活動は引き続き高まった状態であると考えられ、火口周辺に大きな噴石が飛散する噴火が発生する可能性があります。
御岳火口中心から概ね 1.5km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。
風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。
地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。
令和６年３月 27 日に火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）を発表しました。その後、警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図１、図２-①②、図３-①～④、図 5-2-③）

御岳（おたけ）火口では、噴火が時々発生しました。噴火に伴う噴煙は、最高で火口縁上700ｍまで上がりました（９月：噴火なし）。弾道を描いて飛散する大きな噴石は、観測されませんでした。爆発は発生しませんでした（９月：０回）。

御岳火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測しました。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、集落（御岳火口から南南西約3.5km）では降灰や鳴動は確認されませんでした。

・地震や微動の発生状況（図２-③、図３-⑥～⑧、図４、図5-2-②）

諏訪之瀬島の西側で発生していると推定される火山性地震は、少ない状態で経過しており、月回数は104回（９月：125回）でした。御岳火口付近の火山性地震は、月回数は36回（９月：16回）と少ない状態で経過しました。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php
次回の火山活動解説資料（令和８年 11 月分）は令和８年 12 月８日に発表する予定です。
本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokuji.html
この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、東京大学及び十島村のデータも利用して作成しています。
資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50ｍメッシュ（標高）』を使用しています。

震源が求まった火山性地震は、島の西側の深さ１km付近に分布しました。
火山性微動は時々発生しました。

・地殻変動の状況（図２-④、図5-1、図5-2-①）

GNSS連続観測では、2024年10月以降、島の西側におけるマグマの蓄積量の増加を示唆する変動が認められていましたが、2025年11月頃から停滞しています。

・火山ガスの状況（図３-⑤）

東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所、十島村及び気象庁が実施した観測では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、１日あたり1,100トンでした（９月：観測値なし）。



図１　諏訪之瀬島　噴火活動の状況（10 月 15 日、キャンプ場監視カメラ）

・御岳火口では、噴火が時々発生しました。
・噴火に伴う噴煙は最高で火口縁上 700ｍまで上がりました（９月：噴火なし）。

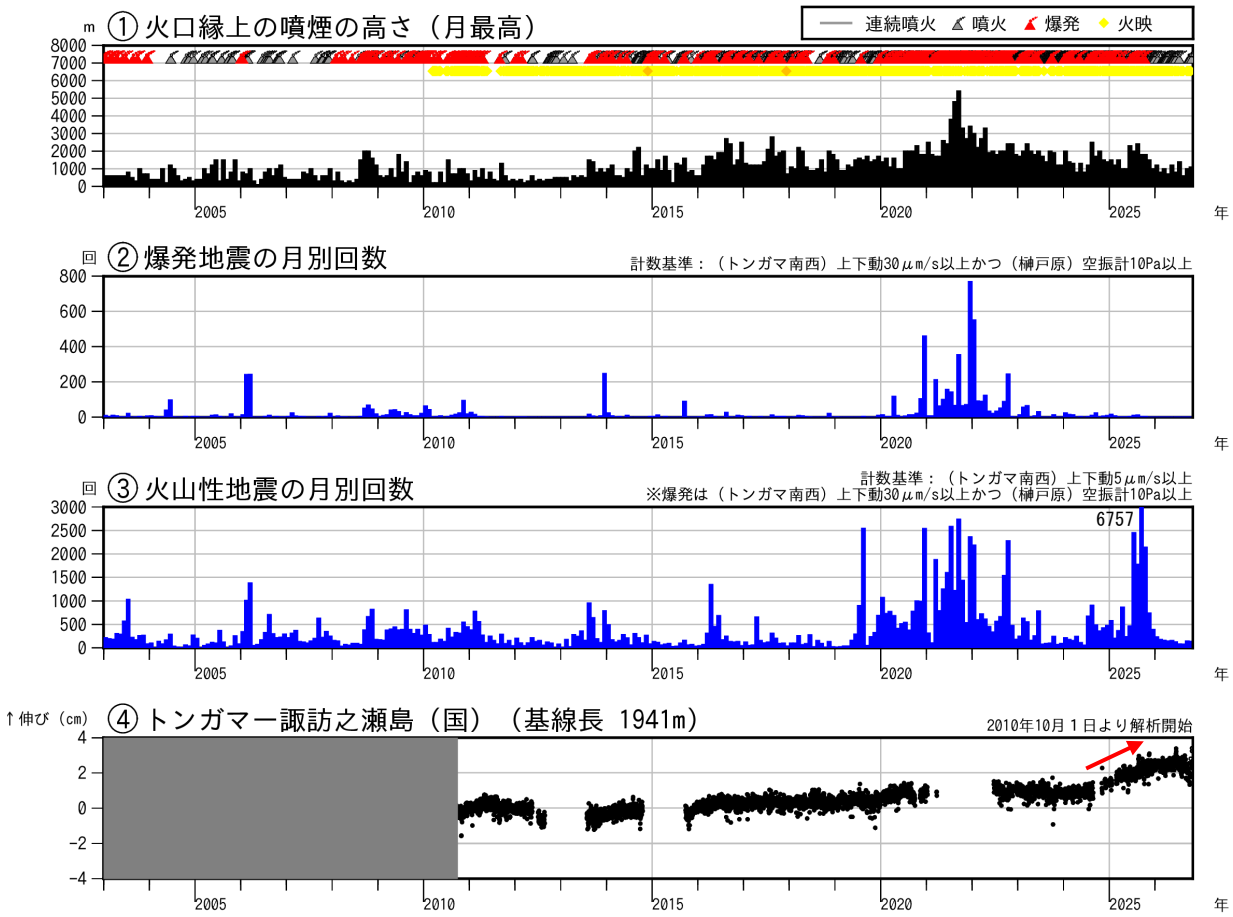
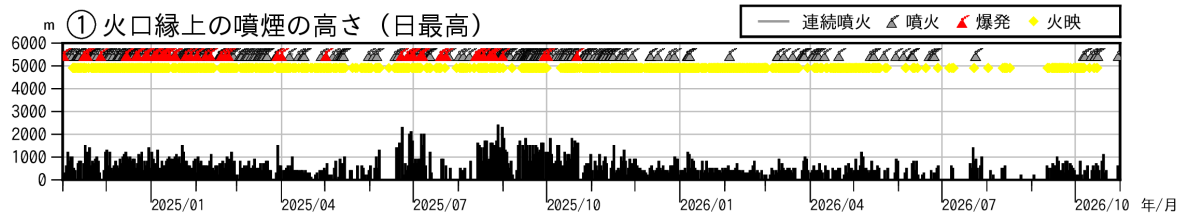
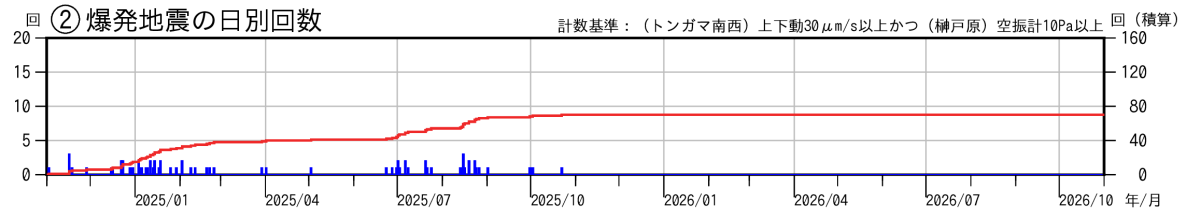


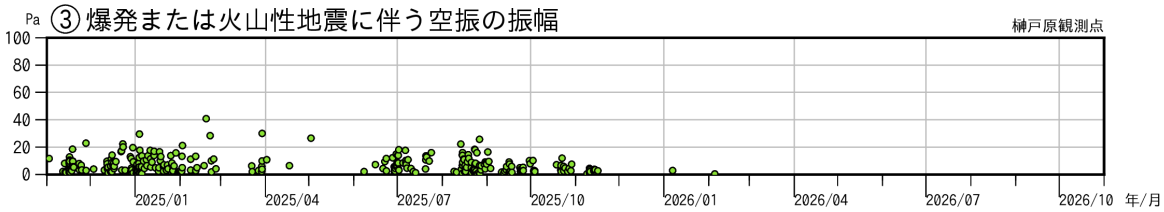
図２　諏訪之瀬島　長期の火山活動経過図（2003 年１月～2026 年 10 月）

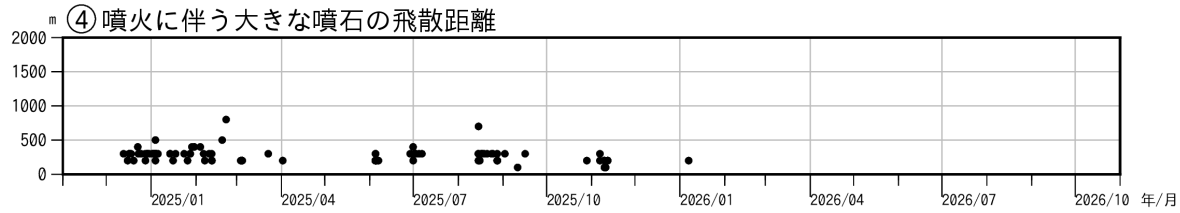
・御岳火口では長期にわたり噴火を繰り返しています。
・諏訪之瀬島の周辺で発生していると推定される火山性地震は、少ない状態で経過しています。2024 年 10 月頃から 2025 年 12 月頃にかけて、島の周辺において地震活動の高まりが認められました。
・GNSS 連続観測では、2024 年 10 月以降、島の西側におけるマグマの蓄積量の増加を示唆する変動が認められていましたが（赤矢印）、2025 年 11 月頃から停滞しています。

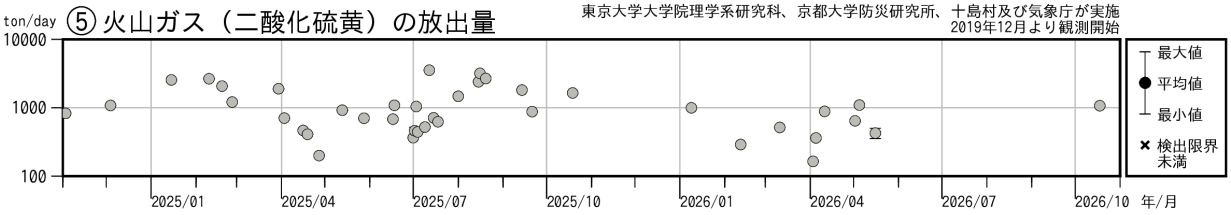
2024 年８月 29 日から 12 月３日及び 2025 年９月 10 日から 10 月 14 日は、寄木カメラ障害のため噴煙の最高高度が観測できていない可能性があります。
ナベタオ観測点または御岳南山腹観測点で計数している期間があります。
④の基線は図６の①に対応しています。④の基線の空白部分は欠測を示しています。
④2024 年９月１日の観測点修繕工事（トンガマ観測点）に伴うステップを補正しています。
（国）：国土地理院

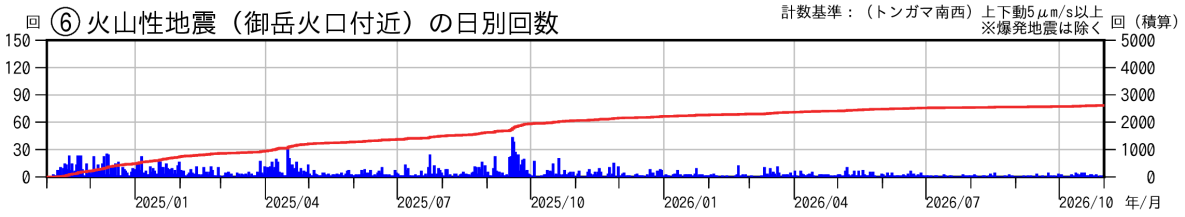

m
① 火口縁上の噴煙の高さ（日最高）
連続噴火 噴火 爆発 火映
6000
5000
4000
3000
2000
1000
0
2025/01
2025/04
2025/07
2025/10
2026/01
2026/04
2026/07
2026/10
年/月

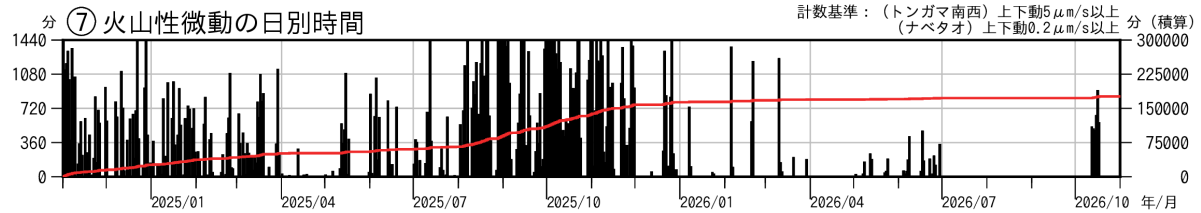

回
② 爆発地震の日別回数
計数基準：（トンガマ南西）上下動30μm/s以上かつ（榊戸原）空振計10Pa以上
回（積算）
20
15
10
5
0
160
120
80
40
0
2025/01
2025/04
2025/07
2025/10
2026/01
2026/04
2026/07
2026/10
年/月


Pa
③ 爆発または火山性地震に伴う空振の振幅
榊戸原観測点
100
80
60
40
20
0
2025/01
2025/04
2025/07
2025/10
2026/01
2026/04
2026/07
2026/10
年/月


m
④ 噴火に伴う大きな噴石の飛散距離
2000
1500
1000
500
0
2025/01
2025/04
2025/07
2025/10
2026/01
2026/04
2026/07
2026/10
年/月


ton/day
⑤ 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量
東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所、十島村及び気象庁が実施
2019年12月より観測開始
最大値
平均値
最小値
検出限界未満
10000
1000
100
2025/01
2025/04
2025/07
2025/10
2026/01
2026/04
2026/07
2026/10
年/月


回
⑥ 火山性地震（御岳火口付近）の日別回数
計数基準：（トンガマ南西）上下動5μm/s以上
※爆発地震は除く
回（積算）
150
120
90
60
30
0
5000
4000
3000
2000
1000
0
2025/01
2025/04
2025/07
2025/10
2026/01
2026/04
2026/07
2026/10
年/月


分
⑦ 火山性微動の日別時間
計数基準：（トンガマ南西）上下動5μm/s以上
（ナベタオ）上下動0.2μm/s以上
分（積算）
1440
1080
720
360
0
300000
225000
150000
75000
0
2025/01
2025/04
2025/07
2025/10
2026/01
2026/04
2026/07
2026/10
年/月

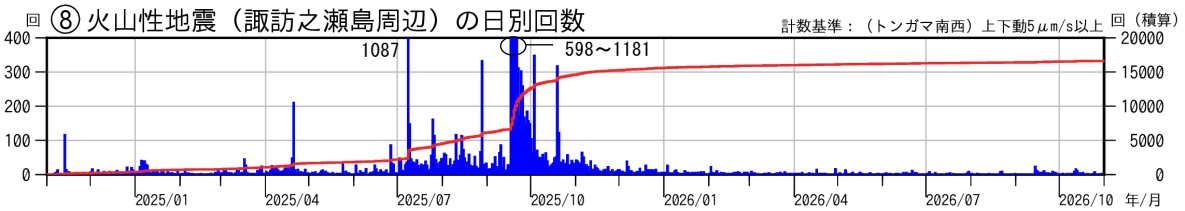

回
⑧ 火山性地震（諏訪之瀬島周辺）の日別回数
計数基準：（トンガマ南西）上下動5μm/s以上
回（積算）
1087
598～1181
400
300
200
100
0
20000
15000
10000
5000
0
2025/01
2025/04
2025/07
2025/10
2026/01
2026/04
2026/07
2026/10
年/月

図３（前ページ）　諏訪之瀬島　最近の火山活動経過図（2024 年 11 月～2026 年 10 月）

＜10 月の状況＞

・噴火に伴う噴煙は、最高で 700ｍまで上がりました（９月：噴火なし）。
・爆発は発生しませんでした（９月：０回）。
・弾道を描いて飛散する大きな噴石は、今期間は観測されませんでした。
・御岳火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測しました。
・火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、１日あたり 1,100 トンでした（９月：観測値なし）。
・御岳火口付近の火山性地震は、月回数は 36 回（９月：16 回）と少ない状態で経過しました。
・火山性微動は時々発生しました。
・諏訪之瀬島の西側で発生していると推定される火山性地震は、少ない状態で経過しており、月回数は 104 回（９月：125 回）でした。

2024 年８月 29 日から 12 月３日及び 2025 年９月 10 日から 10 月 14 日は、寄木カメラ障害のため噴煙の最高高度が観測できていない可能性があります。

火山ガス放出量は噴火の直後に計測した場合、値が大きくなり、噴火の発生前に計測した場合には小さくなる傾向があります。

トンガマ南西観測点の地震計の機器障害により、ナベタオ観測点または御岳南山腹観測点で計数している期間があります。

赤線は火山性地震の回数や火山性微動の時間の積算（右軸）を示します。

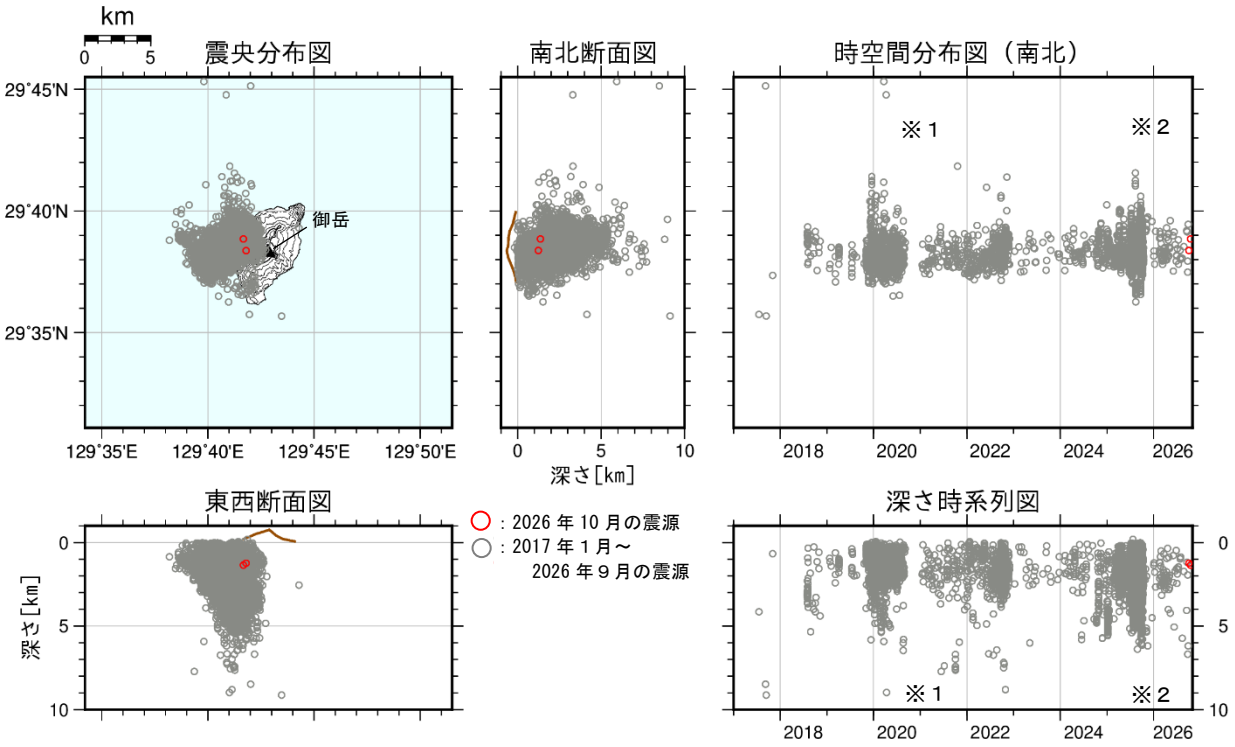


図４　諏訪之瀬島　震源分布図（2017 年１月～2026 年 10 月）

＜10 月の状況＞

震源が求まった火山性地震は、島の西側の深さ１km 付近に分布しました。

※１　2020 年９月５日から 2021 年１月 10 日まで、一部観測点の障害により検知力や震源の精度が低下しています。

※２　2025 年 10 月 14 日から 2026 年２月 14 日まで、一部観測点の障害により検知力や震源の精度が低下しています。

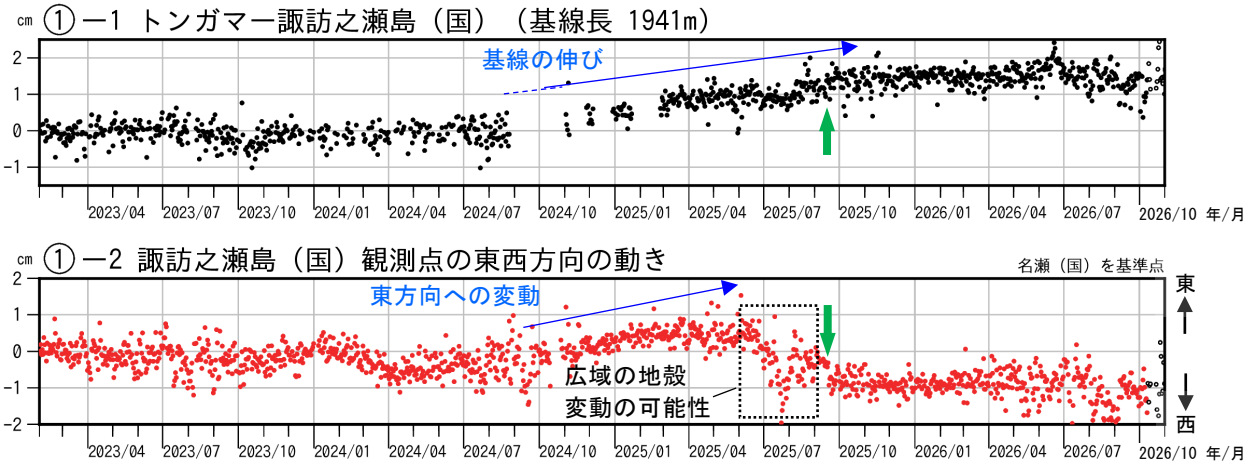


図 5-1　諏訪之瀬島　GNSS連続観測（2023 年２月～2026 年 10 月）

GNSS連続観測では、2024 年 10 月以降、島の西側におけるマグマの蓄積量の増加を示唆する変動（青矢印）が認められていましたが、2025 年 11 月頃から停滞しています。

①-1 の基線は図６の①に対応しています。空白部分は欠測を示しています。2024 年９月１日の観測点修繕工事（トンガマ観測点）に伴うステップを補正しています。

緑色の矢印は 2025 年９月 17 日の諏訪之瀬島周辺の地震による変動です。

①-2 は島外の観測点(名瀬（国）)を固定した観測点の東西の変動を示しています。

直近の白丸は速報的な解析結果であり、再解析により修正されることがあります。

（国）：国土地理院

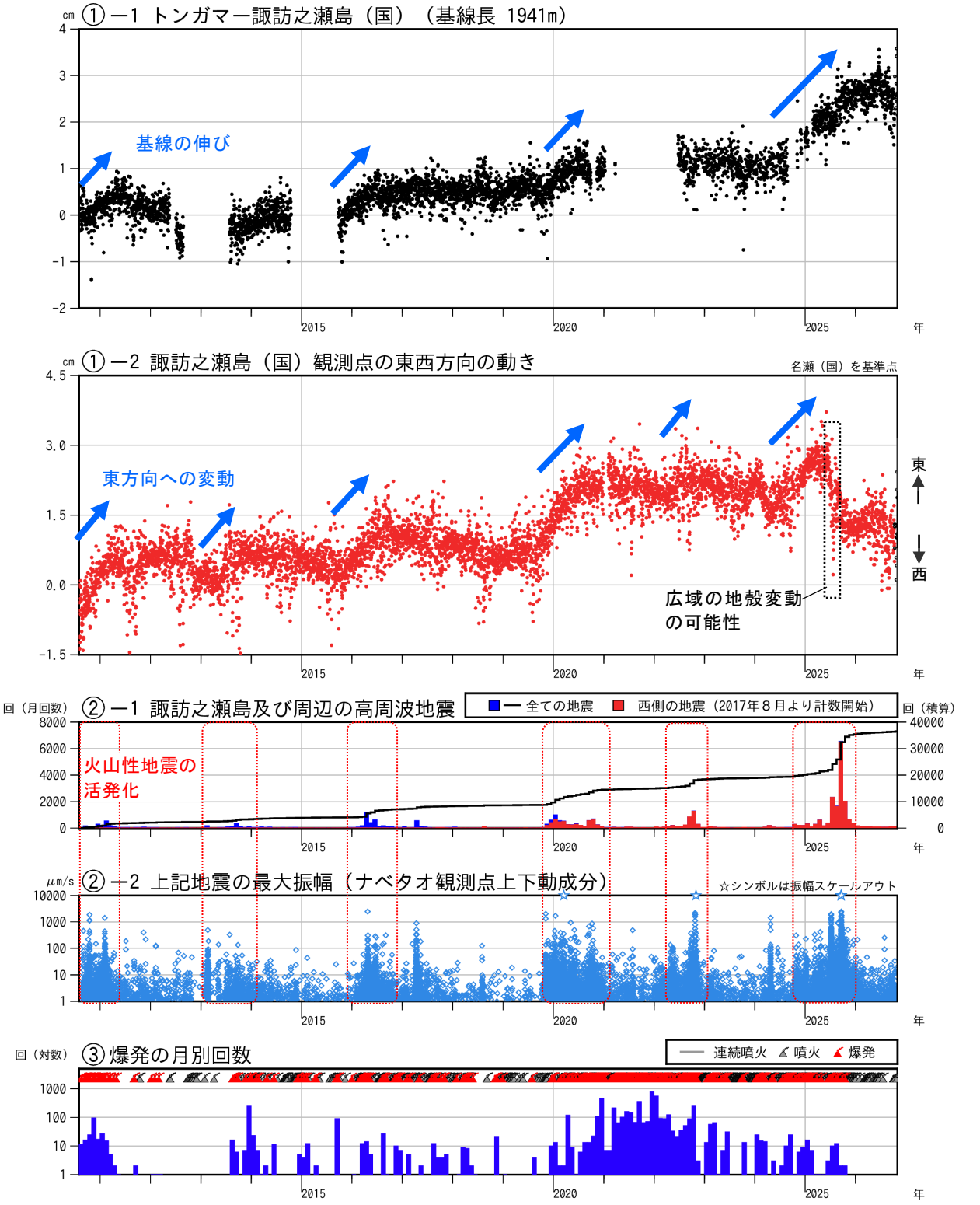


図 5-2　諏訪之瀬島　GNSS連続観測と周辺の火山性地震（2010 年８月～2026 年 10 月）

・GNSS連続観測では、2024 年 10 月以降、島の西側におけるマグマの蓄積量の増加を示唆する変動が認められていましたが、2025 年 11 月頃から停滞しています。
・諏訪之瀬島の周辺で発生していると推定される火山性地震は、少ない状態で経過しています。2024 年 10 月頃から 2025 年 12 月頃にかけて、島の周辺において地震活動の高まりが認められました。

①-1 の基線は図６の①に対応しています。空白部分は欠測を示しています。2024 年９月１日の観測点修繕工事（トンガマ観測点）に伴うステップを補正しています。
①-2 は島外の観測点(名瀬（国）)を固定した観測点の東西の変動を示しています。
直近の白丸は速報的な解析結果であり、再解析により修正されることがあります。
（国）：国土地理院

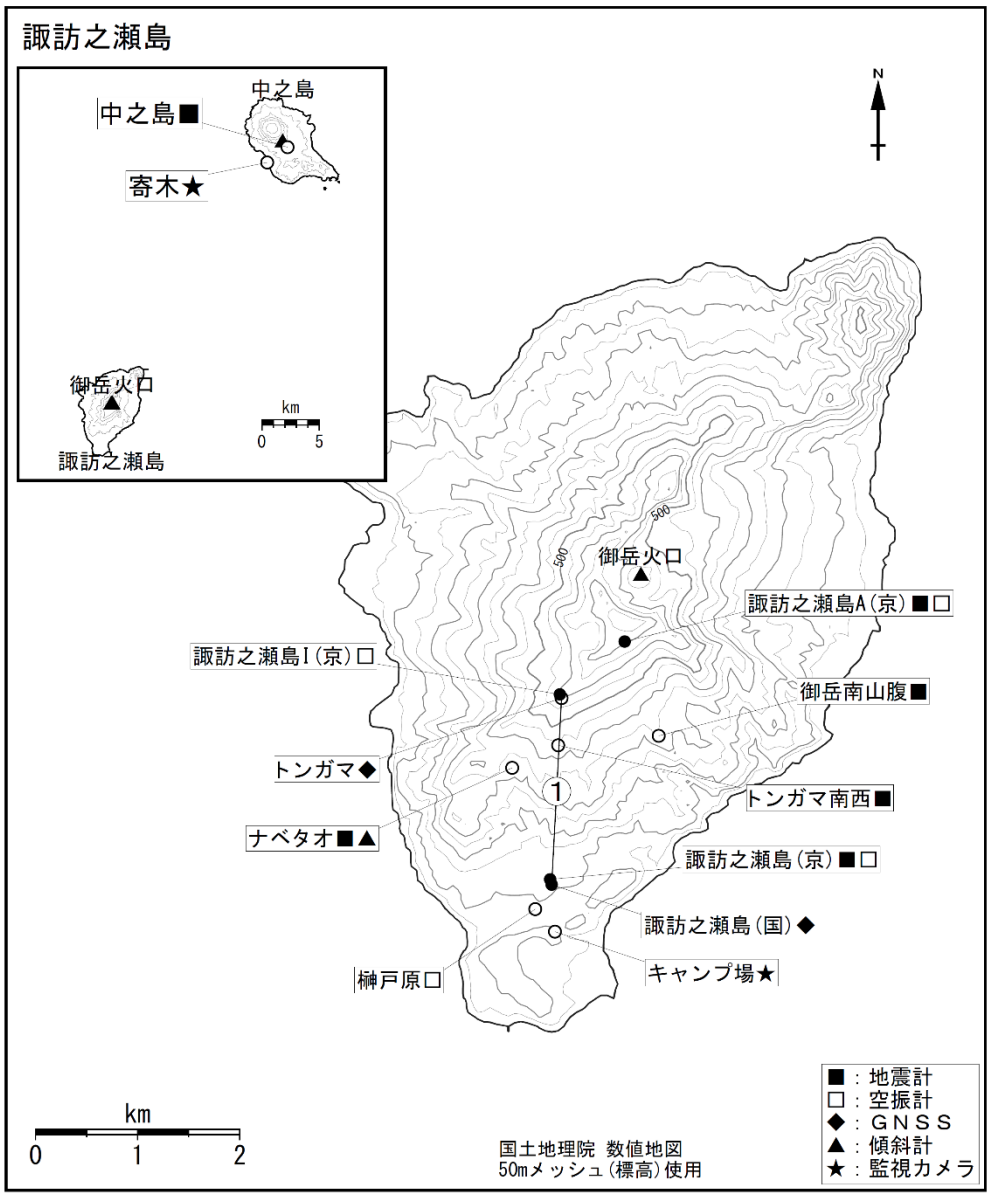


図６　諏訪之瀬島　観測点配置図と GNSS 連続観測の基線番号

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院、（京）：京都大学